

CUV e: レスキュー時の取り扱い

CUV e:



2025 年 3 月
本田技研工業株式会社

はじめに

本書は、CUV e: のレスキュー活動をする際に注意していただきたい事項を説明しています。
安全に作業していただくためにも、本書をよくお読みいただき注意事項を遵守してください。

CUV e: は、ガソリンを使わずに、蓄電された電気を使ってモータを駆動させて走行しています。この車両には 2 種類のバッテリーが装備されています。ライト類や電気アクセサリを使用するための 12 V バッテリーと、モータの駆動をする動力用バッテリーです。

本田技研工業株式会社

安全に関する表示について

以下のシンボル マークのある項目は、安全に関して特に重要な事項を説明しています。
必ずお読みください。

 危険	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの
 警告	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
 注意	指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの



※ 車両の高電圧部位には左図のような高電圧警告マークが貼付されています。

目 次

1. CUV e: の見分け方	2
2. EV 車について	3
■ 主要部品	3
■ 動力用バッテリーについて	4
■ 動力用バッテリー液漏れ時の処置	4
■ パワーコントロールユニット（PCU）について	5
■ モータについて	5
■ 12 V バッテリーについて	5
3. レスキュー作業時の注意	6
■ 処置概要	6
■ 動力用の電圧の遮断	6
■ 火災時の注意と処置	6
■ 水没時の注意と処置	7
■ 動力用バッテリー破損時の注意と処置	7
■ 動力用の電圧システムの遮断方法	8
4. 事故車運搬要領	13
■ 車両データ	13
■ 車両運搬要領	13
高電圧注意標示	巻末

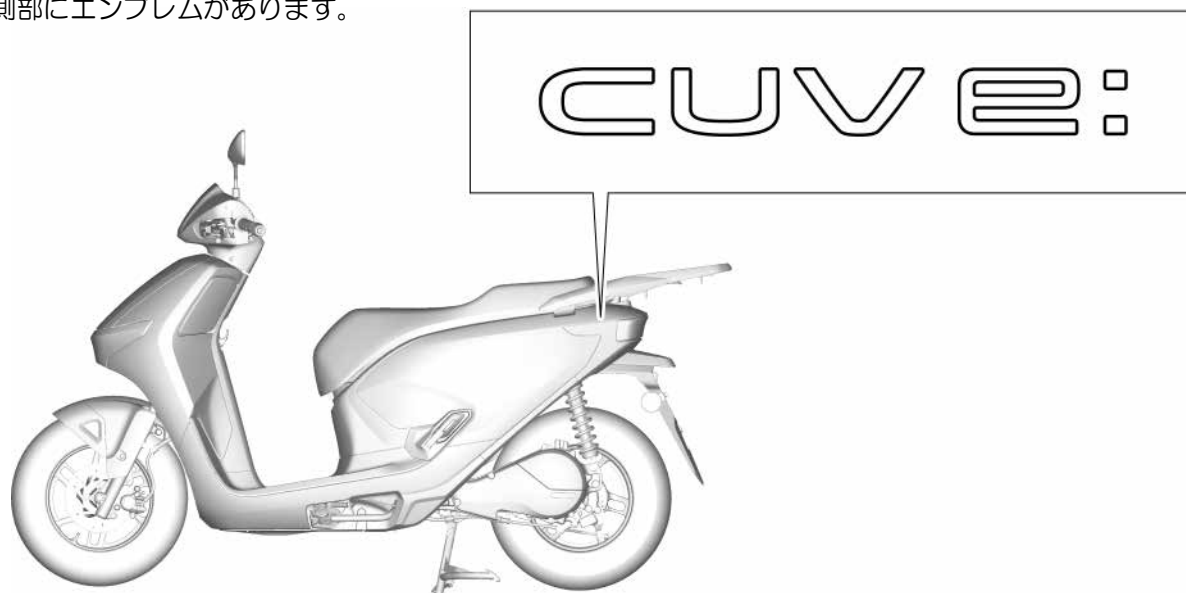
1. CUV e: の見分け方

1. CUV e: の見分け方

以下に CUV e: の外観および特徴を紹介します。事故車両が該当車種であれば、本書に記載の注意事項を遵守してレスキュー作業にあたってください。

外 観

側部にエンブレムがあります。



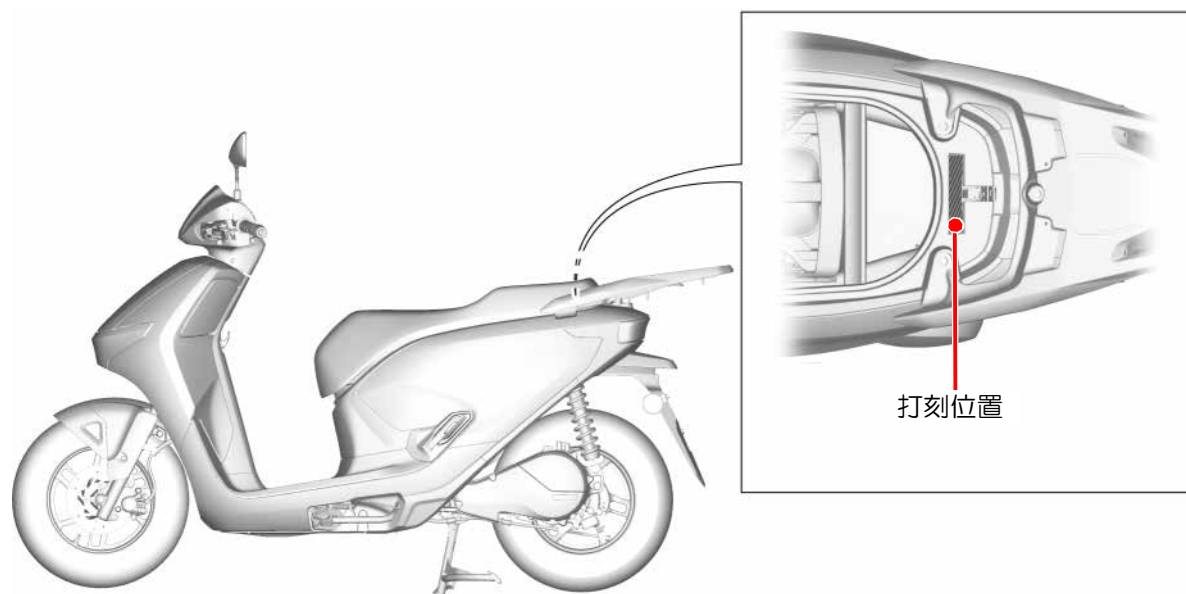
型式による識別

ラゲッジボックス内で型式およびフレームナンバーが確認できます。

フレームナンバーの前 4 ケタが型式になります。

表示例：EF18-XXXXXXX（7 桁の数字）

CUV e: であることは、最初の 4 ケタの記号で識別できます。



2. EV 車について

2. EV 車について

CUV e: は、最大約 115 V の電圧を使用しています。
そのため、レスキュー活動にあたっては、注意と対応が必要です。

▲ 警告

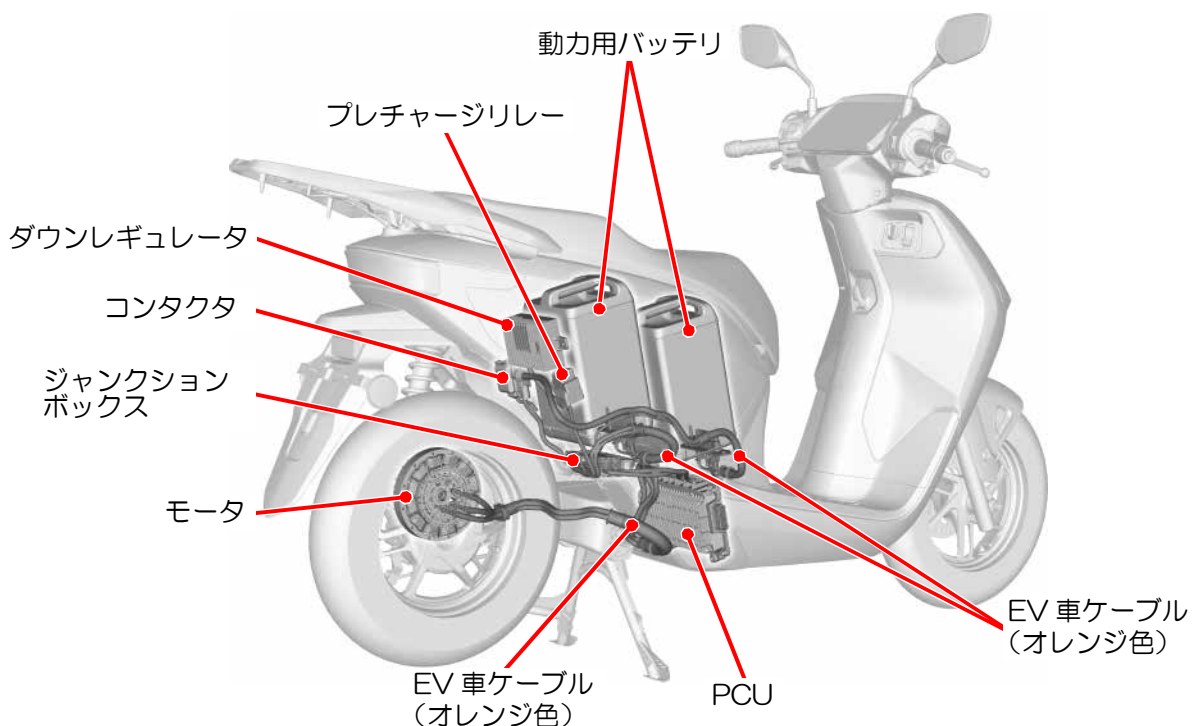
- EV 車の電圧ケーブル（オレンジ色）が破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が動力用の電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- やむを得ず動力用の電圧ケーブルや電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。
- 事故処理後の車両保管時など関係者が車両から離れる場合、他の人が EV 車と知らずに不用意に触れることがないように、車両には「高電圧作業中、触るな！」の標示をしてください。（本書巻末の高電圧注意標示をコピーしてご活用ください）

【準備品】 CUV e: のレスキュー活動にあたっては、あらかじめ以下の物を準備しておいてください。

- ① 絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕
- ② ABC 消火器
- ③ 耐溶剤用保護具〔ガスマスク（有機ガス用）、ゴム手袋（耐薬品用）〕
- ④ ウェス、古タオル

■ 主要部品

主要部品は以下の通りです。



2. EV 車について

■動力用バッテリーについて

CUV e: は、12 V のバッテリーのほかに、動力用の電圧に対応したリチウムイオンバッテリーを搭載しています。このバッテリーは、総電圧が 35 ～ 57.4 V あります。

動力用バッテリーは、シート下に格納されています。また、電解液はバッテリー内に密閉されていますので、交換・補充は不要です。

動力用バッテリーが破損しても電解液は多量に流出するおそれはありません。万一、液漏れした場合の処置については、次項をお読みください。



⚠ 危険

以下の項目を守らないと動力用バッテリーが発熱、発煙、破裂、発火する原因となります。

- ・動力用バッテリーに水をかけたり、水没させないこと。
- ・動力用バッテリーを火の付近、ストーブの付近、直射日光等の高温な場所に放置しないこと。
- ・動力用バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないこと。また、穴が開いたり、変形させるような外力を加えないこと。

⚠ 警告

動力用バッテリーが液漏れしたり異臭がするときは、直ちに火気から遠ざけること。

■動力用バッテリー液漏れ時の処置

CUV e: の動力用バッテリーの電解液には揮発性有機溶剤が使用されています。また、無色透明のため見ただけでは判別できません。

動力用バッテリー付近に液漏れが確認され電解液であることが疑われる場合は、耐溶剤用保護具〔ガスマスク（有機ガス用）、ゴム手袋（耐薬品用）〕を必ず着用し、乾燥したウエス等で漏れた液を拭き取ってください。使用したウエス等は密閉できる袋や容器に格納し、産業廃棄物として適切に処理してください。

⚠ 警告

動力用バッテリーの電解液は人体に有害なため、目に入ったり皮膚に付着すると失明や傷害を受けるおそれがあります。万一、電解液が目に入ったり皮膚に付着した場合は直ちに多量の水で洗浄し、専門医の診断を受けてください。

2. EV 車について

■パワーコントロールユニット（PCU）について

PCUは動力用バッテリーボックス下に配置されており、システムの起動や電源の遮断、故障の検出、モータの制御をおこなっています。

■モータについて

モータはリヤホイール左外側に配置されており、後輪を駆動します。

■12 V バッテリーについて

12 V バッテリーはフロアステップ下に配置されており、システムの起動用電源や電装品への電源供給をおこなっています。

3. レスキュー作業時の注意

■処置概要

CUV e: は高電圧のリチウムイオンバッテリーを搭載しており、高電圧に対する注意と処置が必要になります。以下の各項目をよく読み、実際の作業時には状況に応じた対応をしてください。

■動力用の電圧の遮断

CUV e: は、動力用の電圧を遮断できるシステムを備えています。

- ・EV 車の電圧回路の遮断は、メインスイッチに連動しています。メインスイッチが OFF “○” になることにより動力用の電圧回路は遮断されます。
- ・衝突や水没などにより、短絡や過電流があった場合はバッテリーマネジメントユニットにより動力用の電圧は遮断されます。またヒューズが溶断することによっても動力用の電圧が遮断されます。

＜バッテリー本体貼付ラベル＞



- ・動力用バッテリーの側面部分には注意ラベルを貼付けています。

■火災時の注意と処置

車両火災時には、バッテリーの冷却を兼ねて大量の放水により消火してください。大量の放水が困難な場合は ABC 消火器（油火災・電気火災の両方に対応するもの）により消火してください。

火災時は電気配線の絶縁被覆が燃えることにより回路がショートし、動力用の電圧が遮断されます。また、大量の放水による漏電によっても回路がショートし、動力用の電圧が遮断されます。火災部位により、状況によっては動力用の電圧が遮断されない場合もありますので、消火後は 8 ページの「動力用の電圧システムの遮断方法」に従って動力用の電圧を遮断してください。【参考】CUV e: の動力用の電圧システムに使用されている部品には、爆発性のあるものはありません。

3. レスキュー作業時の注意

■水没時の注意と処置

車両水没時、水の浸入による漏電で回路がショートすることにより、動力用の電圧が遮断されます。水深が浅い、水の浸入による漏電が起きない部位の水没など、状況によって動力用の電圧が遮断されない場合もありますので、可能な限り 8 ページの「動力用の電圧システムの遮断方法」に従って電圧を遮断してください。

■動力用バッテリー破損時の注意と処置

衝突などで動力用バッテリーが破損していた場合には、以下の警告を守ってください。

万一、液漏れが疑われる場合は、4 ページの「動力用バッテリー液漏れ時の処置」の項に従ってください。

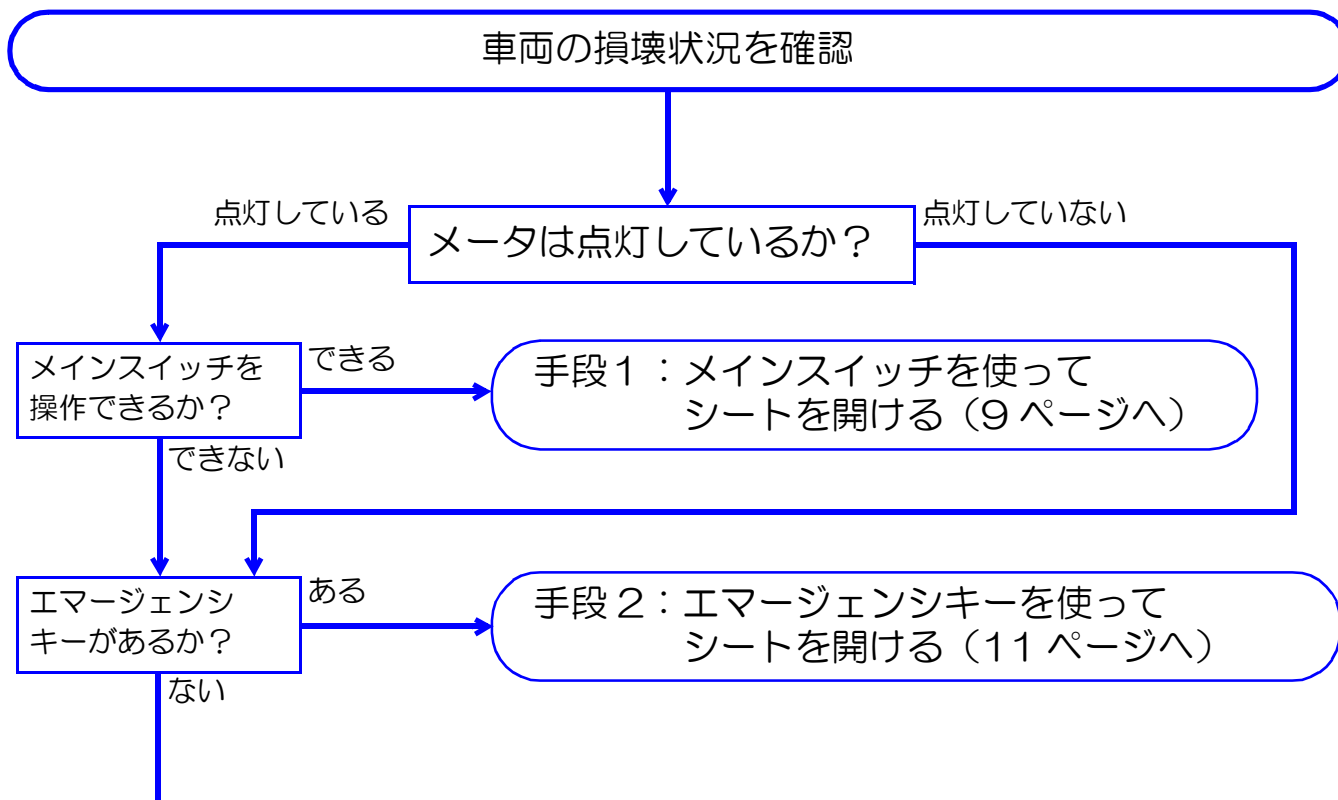
警告

- ・ オレンジ色の電圧ケーブルが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が動力用の電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず動力用の電圧ケーブルや電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

3. レスキュー作業時の注意

■動力用の電圧システムの遮断方法

レスキュー活動を行う前に、動力用の電圧を遮断してください。以下に紹介する方法で動力用の電圧は遮断できます。動力用の電圧の遮断後は通常のレスキュー活動が可能です。下図の流れに従って、最も容易な方法を選択してください。



▲ 注意

シートが開けられない場合は確実に動力用の電圧遮断ができません。動力用の電圧部位が損傷して配線や端子などが露出していた場合は、絶対に触れないよう、また露出部分が車両や人体に接触しないよう十分に注意してレスキュー活動にあってください。

▲ 警告

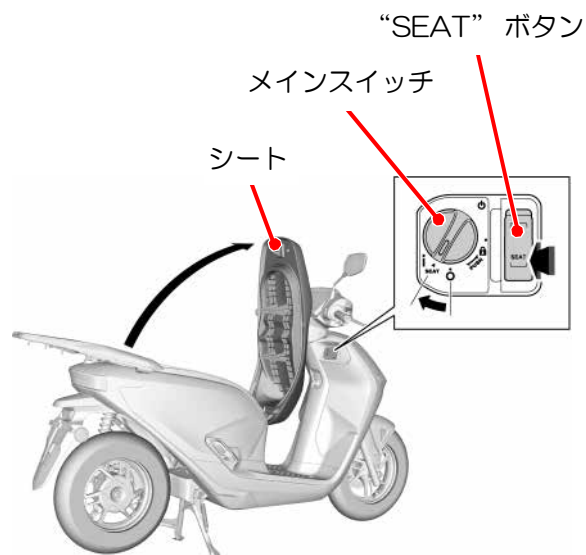
- ・ オレンジ色の電圧ケーブルが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が動力用の電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず動力用の電圧ケーブルや電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

手段 1：メインスイッチを使ってシートを開ける

◆ 車両が損傷していても、メインスイッチが操作できる場合

シートを開けてください

- ① メインスイッチを“SEAT”の位置まで回す。
- ② “SEAT”のボタンを押してシートロックを解除し、シートを持ち上げる。



メータ内の表示が全て消灯していることを確認してください

※ 意図しない再始動を防ぐためにも、
Honda SMART Key を車から最低でも
6 メートル離してください。

<メータ消灯時>



▲ 注意

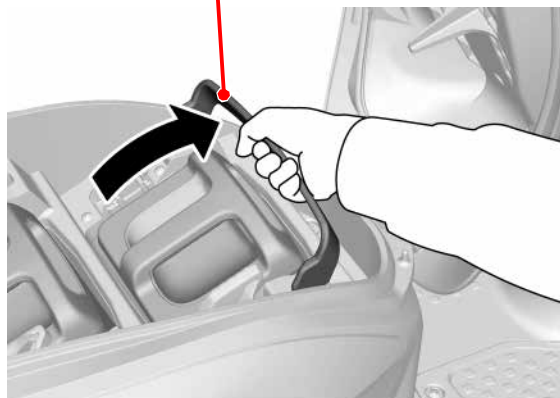
メインスイッチで電源遮断後も、コンデンサ等に蓄えられた電荷の放電に約 5 分間を要します。低電圧遮断後は、回路のショート等に十分注意してください。

3. レスキュー作業時の注意

動力用バッテリーを2つとも取り外してください

① ロックプレートを前方に倒す。

ロックプレート



② 動力用バッテリーを引き抜く。



⚠ 注意

動力用バッテリー取り外し後、放電のために 1.0 秒間待ってから作業にあたってください。

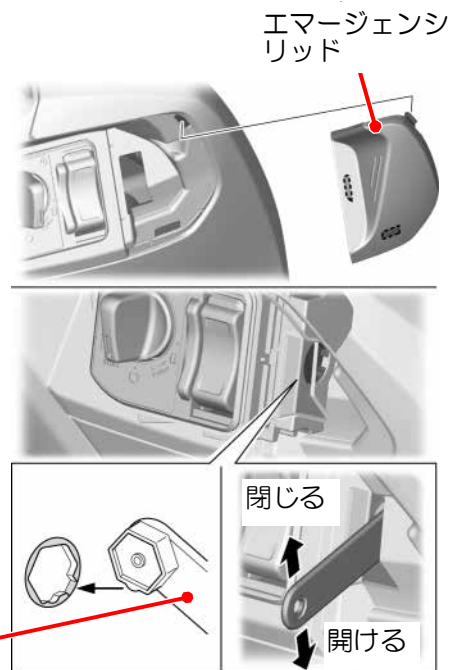
レスキュー活動を開始してください

手段 2：エマージェンシキーを使ってシートを開ける

◆メインスイッチ操作ができないが、シートは開けられる場合

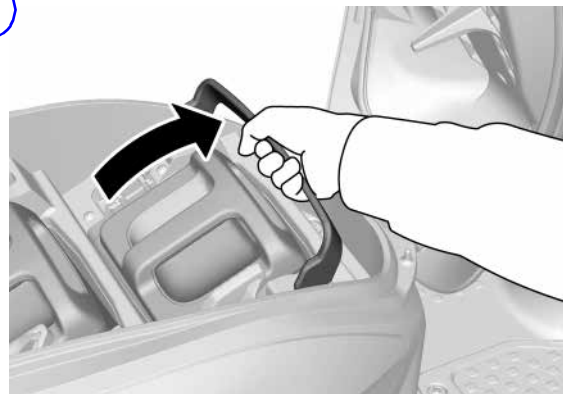
シートを開けてください

- ① エマージェンシリッドを取り外す。
- ② エマージェンシキーを使い、シートロックを解除する。
※上記手順が実行できない場合は、バールなどでシートを車両後部側からこじ開けてください。



動力用バッテリーを2つとも取り外してください

- ① ロックプレートを前方に倒す。



- ② 動力用バッテリーを引き抜く。



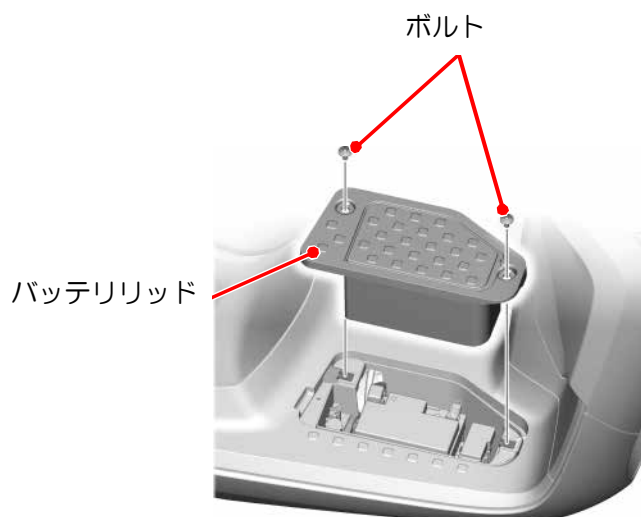
▲ 注意

動力用バッテリー取り外し後、放電のために 1.0 秒間待ってから作業にあたってください。

3. レスキュー作業時の注意

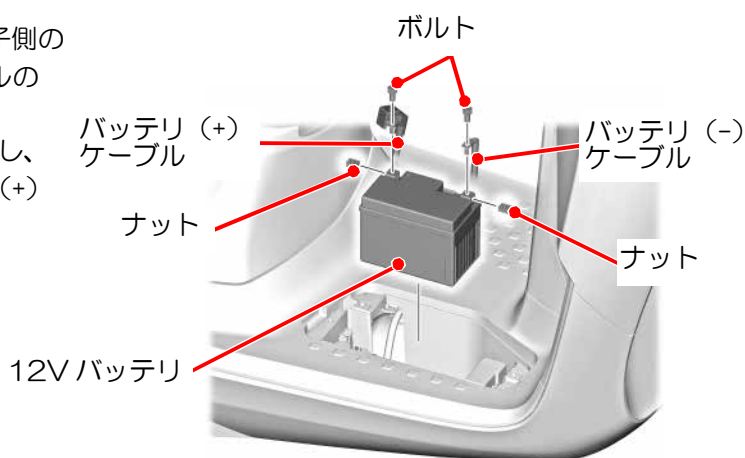
バッテリーリッドを取り外してください

- ① ボルトを外す。
- ② バッテリーリッドを取り外す。



12V バッテリーを取り外してください

- ① 12V バッテリーからマイナス (-) 端子側のボルトとナットを外してからケーブルの接続を外す。
- ② プラス (+) 端子側の赤いカバーを外し、ボルトとナットを外してからプラス (+) 端子を外す。(もしくは切断する)
- ③ 12V バッテリーを取り外す。



⚠ 注意

12V バッテリーを取外し、定電圧を遮断してから短絡等が起きないように十分注意して作業にあたってください。

レスキュー活動を開始してください

4. 事故車運搬要領

▲ 警告

- ・ オレンジ色の電圧ケーブルが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が動力用の電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず動力用の電圧ケーブルや電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

■ 車両データ

項目 車種	全長 (mm)	全幅 (mm)	全高 (mm)	最低地上高 (mm)	ホイール ベース (mm)	車両重量 (kg)
CUV e:	1,970	675	1,100	143	1,310	120

■ 車両運搬要領

運搬時は次のことを守って行ってください。

- 4 輪車等への積載時、車両に損傷を与えるような作業は行わないこと。
- 動力用の配線やケーブルなどにロープ等を掛けて車両を固定しないこと。
- 「3. レスキュー作業時の注意」を参照し、動力用電圧回路を遮断すること。

表示

！ 触るな！
△ 高電圧作業中、

△ 高電圧作業中、
触るな！

担当

コピーをとり、折って作業中に車両に表示する。

